

26PA-pm431

波動療法と自己イメージ法における身体反応の変化に関する研究

○小澤 佐余子¹, 浅野 哲² (¹ヘルスケアたまゆら, ²国際医福大薬)

【目的】波動療法は人間の不調をエネルギーの乱れからおきるとし、本来あるべき状態に回帰させるものである。また、感情と波動は密接な関係があり、マイナスの感情は身体の不調を引き寄せる。このように精神領域からみても興味深く可能性を秘めているともいえる波動療法を未来自己イメージ法と組み合わせることにより、自己イメージと身体反応の変化を観察した。

【方法】

2017年1月から11月までの10か月間、13歳～58歳の男女24名を対象として波動療法および未来自己イメージ法を施行した。体温、血圧測定し、チェックリスト（自己価値観、自己抑制、依存）を用いて、「自己に対してどのようなイメージを持っているか」を評価した。波動療法としては、波動調整機器を用いて各臓器の波動バランスの調整操作を行った。測定および波動調整を行う間に未来自己イメージ法を行った。倫理的配慮としては、発表は全て匿名とし学会発表のデータとしてのみ使用することをクライアントに対して伝え、同意を得た。

【結果及び考察】

クライアントに関しては、すべての方において終了後ポジティブなイメージを持つことができた。波動療法と未来自己イメージ法を施行した後では、血圧および脈拍は低下が認められ、自己価値の上昇、自己抑制および依存の低下が認められた。以上の結果より、波動療法と未来自己イメージ法により、自律神経系の安定と鎮静化が得られることが示唆された。さらに、波動療法とカウンセリングを組み合わせることで身体と心の密接な関係をクライアントが実感し、未病段階からの注意を喚起できることが期待できた。